

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-146	高等学校	情報科	情報の科学	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183第一	情科311	高等学校 情報の科学		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

身近な事例や題材を通じて、情報と社会とのかかわりについて、関心を高めることができるよう配慮した。さらに、情報機器や情報通信ネットワークを使用して、実際に情報発信やコミュニケーションをおこなう活動を通じて、情報モラルを育成できるようにすることにも留意した。また、情報科学の基本的な概念にもふれることで、社会とのかかわりや情報モラルについて、科学的な見方や考え方ができる力を養えるようにした。

## 2. 編修の基本方針

1. 問題解決の事例を通じて、情報の科学的理解ができるように配慮した。
2. 実践的な事例を中心に展開した。また、新しい考え方や技術などを適宜導入していくとともに、技術革新によって内容が陳腐化しないよう配慮し、基本的なものを中心に展開した。記述は、論理展開に配慮した。
3. コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、適切に情報を収集し、処理し、発信できる能力を養えるようにした。座学と実習をバランスよくできるように配慮した。
4. 望ましい情報社会の構築に不可欠な、情報モラルの考えを育成できるように配慮した。高校生が、「情報」を自分の問題としてとらえられるよう、日常的で具体的な例を多数取り上げた。

## 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
携帯電話のマナー  コミュニケーション手段の発達  プレゼンテーションをおこなうとき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話のマナーを通じて、公共の場における適切なふるまいについて考えられるようにした。(第3号)</li> <li>・メディアや情報技術の発展において、各国でどのような重要な出来事や発明等があったかを俯瞰できるようにして、他国を尊重する態度を養えるようにした。また、日本でも古くから瓦版などのメディアが流通していたことにもふれ、伝統と文化について興味をもてるように配慮した。(第5号)</li> <li>・調べ、まとめ、自分の意見を加えて発表するという活動のできる機会を設け、個々人のもつ意見を尊重する心を養えるようにした。(第2号)。</li> </ul>	<p>前見返し</p> <p>前見返し</p> <p>前見返し</p>
第1章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に見られるさまざまな具体例をとりあげ、幅広い分野にふれられるよう配慮した。(第1号)</li> <li>・知的財産やプライバシーなど個人のもつ権利について、具体的事例を多く取り上げて、自分の問題として考えることができるように配慮した。(第3号)</li> <li>・情報機器が心身に与える影響について扱い、自身の健康を意識できるように配慮した。(第4号)</li> <li>・レポートを作成し相互評価する機会ができるように配慮した。(第2号)</li> </ul>	<p>p. 2-25</p> <p>p. 10-17</p> <p>p. 20-21</p> <p>p. 24-25</p>

第2章	・アナログとデジタルの実例として、身の回りで使われる計測器具を新旧いろいろ列記して幅広い知識が身につくようにした。(第1号)	p. 29
第3章	・電子マネーについて現金をチャージしなければならないことを表現し、勤労によって収入を得る必要があることに気づかせるようにした。(第2号)	p. 63
第4章	・ガソリン車とハイブリッド車の購入費用のシミュレーションを通じて、環境問題を意識できるようにし、自然を大切に環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	p. 102-103
第5章	・データベースが使われる例としてバスのチケット販売システムをとりあげ、さまざまな職業が相互に関わっていることも理解できるようにした。(第2号)	p. 113
第6章(総合実習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的なデータをグラフ化する例をさまざまな分野から多数とりあげ、幅広い知識を得ると同時に、そのデータの内容を読み取ることから真実を追求できる態度を養えるようにした。(第1号)</li> <li>・絶滅危惧種について調べる活動を通じ、自然を大切に環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)</li> <li>・職業について調査・研究する活動を通じ、将来のキャリアについて考える機会が得られるようにした。(第2号)</li> </ul>	<p>p. 124-131</p> <p>p. 130-133</p> <p>p. 135-139</p>
巻末資料	・教科「情報」の内容に関する法律の条文を多数掲載し、情報社会を生きていくうえで必要なルールの根拠を理解できるように配慮した。(第3号)	p. 168-170

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・国際語としての英語を習得する重要性を踏まえ、アルファベットの略号であらわされる用語については、もとのスペルを付記した。また、漢字には積極的にルビを添え、一般的な教養も身につくよう配慮した。
- ・体験を通じて理解することを重視し、随所に「ためしてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「しらべてみよう」欄を設けて、本文の理解を深められるように配慮した。
- ・理解を深められるよう、各章末に「まとめ」「章末問題」を設けた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-146	高等学校	情報科	情報の科学	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183第一	情科311	高等学校 情報の科学		

<p>1. 編修上特に意を用いた点や特色</p> <p>1. 日常生活との関連性を認識させ、「情報」への関心を高められるよう、親しみやすい題材を豊富に取り上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例を多く取り上げ、自分の問題として「情報」への関心を高められるようにした。</li> </ul> <p>2. 「情報」についての基本的な概念や原理・法則を着実に習得できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文記述は丁寧におこない、できるだけ図解をまじえて理解できるようにした。</li> <li>・「考えてみよう」具体例を多く取り上げ、自分の問題として「情報」への関心を高められるようにした。</li> </ul> <p>3. 実習活動を通して、「情報」の性質を体験的に理解できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やってみよう」「ためしてみよう」「しらべてみよう」を配置し、体験を通じて本文の学習内容が定着できるようにした。</li> <li>・各章末では、パーソナルコンピュータの基本操作、科学的理解のための作業、発表活動など、さまざまな体験ができるように配慮した。</li> <li>・総合実習の章を設けて、多様な実習に取り組めるようにした。</li> </ul> <p>4. 学習段階や興味・関心の異なる生徒に対応するため、幅広い内容を取りあげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報機器の操作の習熟度の違いが影響しないよう、パーソナルコンピュータの基本操作も学習できるようにした。</li> </ul> <p>5. 平易にわかりやすく記述するとともに、漢字には積極的にルビを添え、あらゆる学習段階の生徒が無理なく読み進められるよう配慮した。</p> <p>6. ユニバーサルデザインフォントを採用し、読みやすさの向上にも努めた。</p>
--

2. 対照表			
図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
携帯電話のマナー	(4) ア	前見返し	1
コミュニケーション手段の発達	(4) ウ	前見返し	
プレゼンテーションをおこなうとき	(3) ウ	前見返し	
第1章 社会と情報			12
第1節 情報とその活用	(4) ア, (4) ウ	p. 2- 9	
第2節 情報社会の法と個人の責任	(4) イ	p. 10- 17	
第3節 情報化の光と影	(4) ア	p. 18- 23	
章末実習	(4) ウ	p. 24- 25	
第2章 コンピュータと情報			11
第1節 コンピュータで扱う情報	(1) ア	p. 28- 33	
第2節 コンピュータがはたらくしくみ	(1) ア	p. 34- 41	
第3節 さまざまな情報の表現	(1) ア	p. 42- 47	
章末実習	(1) ア	p. 48- 49	

第3章 情報通信ネットワークと情報社会				
第1節 情報通信ネットワークのしくみ	(1) イ	p. 52- 61	10	
第2節 情報システム	(1) ウ	p. 62- 67		
第3節 情報社会と安全性	(4) イ	p. 68- 75		
章末実習	(1) ア	p. 76- 77		
第4章 問題解決とモデル化			10	
第1節 問題とその解決	(2) ア, 3 (ウ)	p. 80- 89		
第2節 モデル化とシミュレーション	(2) ウ	p. 90- 95		
第3節 情報通信ネットワークと問題解決	(3) ア	p. 96-101		
章末実習	(2) ウ	p.102-103		
第5章 データベースと処理手順の自動化			10	
第1節 情報の蓄積・管理のデータベース	(3) イ	p.106-113		
第2節 処理手順の自動化による問題解決	(2) イ	p.114-119		
章末実習	(3) イ	p.120-121		
第5章 総合実習			9	
1 データ分析	(2) ア	p.124-131		
2 ソフトウェアによる問題解決	(2) イ	p.132-139		
3 データベース	(3) イ	p.140-145		
巻末資料			1	
①パーソナルコンピュータのしくみ	(1) ア	p.158-159		
②画像処理・色	(1) ア	p.160-161		
③表計算ソフトウェアを使おう	(1) ア	p.162-165		
④データベースソフトウェアを使おう	(3) イ	p.166-171		
⑤プレゼンテーションソフトウェアを使おう	(3) ウ	p.172-175		
⑥HTML タグのまとめ	(1) イ	p.176-177		
⑦著作権 Q&A	(4) ア	p.178-179		
⑧情報社会のおもな法律	(4) ア	p.180-184		
ローマ字入力表／ショートカットキー	(1) ア	後見返し	1	
キーボード／マウス	(1) ア	後見返し		
			計	65

※年間授業時数を 65 時間として配当している。